

港町函館における 景観の醸成に向けて

寒地土木研究所 第3回技術者フォーラム in 函館
平成21年7月30日

寒地土木研究所 地域景観ユニット 松田 泰明

地域景観ユニットの研究紹介（景観分野）

北海道（積雪寒冷地）における景観（主に沿道景観）に関して、以下の分野の研究を行っています。

- ・ 景観の向上方策（どうしたら良くなるか？）
- ・ 景観の評価手法（どう評価するか？何が良い悪いか？）
- ・ 景観の価値や社会的便益（景観が良いとどうなるか？）
- ・ 道路関連施設（道の駅など）の快適性向上とその効果

他に、ドライブ観光、観光交通を支援するITS、地域景観を生かしたフットパスなど、主にユーザー視点で、研究を進めています。

本日のポイント

1. 景観とは
2. 景観の価値と効果
3. 港町函館の景観とその特徴
4. 訪れる人から見た函館の景観
5. 函館の残念な景観？
6. これからの函館の景観

本質的なものとしての景観の意義

1. 景観とは

人は美しさを求める（美の追求は豊かさの追求）

人間は誰しも、美しさへの欲求を持っている。
 人は美しいものを発見したり、触れたり、所有したり、
 見せることで、喜びを感じ人生の豊かさを享受する。
 また、人は美に集まる。



人は快適な空間を求める（豊かさの追求）

美しさは、空間の快適性に最も大きな影響を与える要素の一つ

古来より美観は必須の条件（社会資本の基本条件）

美しさ（景観性）は、用（機能性）、強（安全性）
 と共に本来、社会資本整備に不可欠な要素である。
 （ギリシャやローマの建造物やまちづくり、
 ローマ道など）



1. 景観とは

景観とは、ある「対象」を、人間が「見る」ことによって成立する。



その対象は、町並みや山、川、田園、樹林、地形などで、人間が含まれていてもかまわない。しかし、一輪の花などを見る場合にはその眺めを景観とはいわない。

「景観とは人間をとりまく環境のながめにほかならない」

(中村良夫氏：景観原論)

視点と視対象

1. 景観とは



- ・見る対象のことを「視対象」、人が見る位置を「視点」という。

視点と視対象

1. 景観とは

視点となる場所を
「視点場」という。

視点場の快適性
視点場は、いかに心地よい場
所かであるかが大切。

また、視点場から視対象への
移動ルートも重要である。



景観はセンスではなく、
知識で理解できる

2. 景観の価値と効果（美しい景観と地域ブランド）



美瑛町とジャガイモ

美しい景観が「丘のまち」としての知名度の向上や町のイ
メージを高め、農産物の地域ブランド化につながっている。

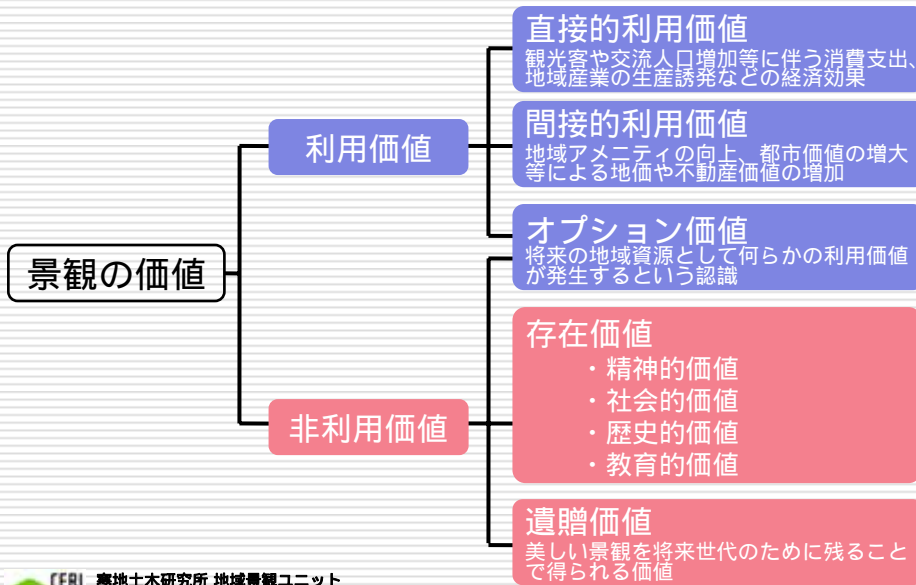


函館市HPより

みなとまち函館の景観の魅力が高まると

水産ブランド・洋菓子ブランドの形成につながる

景観の価値



直接効果（直接的利用価値）

「交流人口の増加」

良好な景観によって交流人口が増加する。



埼玉県川越市

「観光客増加による経済効果」

福岡県北九州市門司港レトロ地区

観光客数 H6年 26万人 H14年 211万人

観光消費 H7年 62億円 H14年 140億円



北九州市門司港

「景観整備による地域の景観産業の振興」

山形県金山町 金山型住宅といわれる在来工法は、地元の住宅産業や林業と結びついている。



山形県金山町

間接効果（間接的利用価値）

「地域価値の上昇」

京都の町家の集積による近隣外部効果の総額は655億円
 中高層建築の集積の近隣外部効果はマイナス788億円



京都の町屋

「地域・都市イメージの向上」

美しい景観は、その地域・都市のイメージを向上させる。
 美瑛・富良野はその美しい景観が地域ブランドを形成



上富良野町

「地域ブランドの形成」

表参道が持つ歴史と美しい景観により、海外一流
 ブランド も地域イメージを重視して相次いで進出



表参道

他に「産業誘致の立地環境の向上」や
 「都市間・地域間競争力の強化」なども・

存在価値（非利用価値）

精神的価値

- 「都市や地域への誇りと愛着・地元意識」
- 「都市・地域の記憶」
- 「人間的感性の回復」

社会的価値

- 「コミュニティの結束力・共同作業」（自治意識）
- 「社会反映性」（景観の乱れた地域では犯罪が多いという報告）
- 「公共の福祉」（健康のために景観を守る必要：米国の最高裁判決）

歴史的価値

- 「歴史的価値」（世界遺産、文化的景観の認定）

教育的価値

- 「教育的意義」（景観学習、美しい景観と天才の輩出の関係）

函館西部地区での景観価値（直接効果と間接効果）

直接効果

- ・元町地区は景観が優れているため、道内外からも観光客が訪れている。
- ・函館市の調査では、それまでは5割程度であった元町地区を訪れたと答える割合が、景観整備事業が完了した平成16年以降、**8割以上**となった。

景観整備事業：歴史香る箱の館（身近なまちづくり支援街路事業：歴史的環境整備地区）



間接効果

- ・西部地区の傾向としては、古い建物を飲食店等として活用したいという需要が高くなっている。



函館西部地区での景観価値（直接効果と間接効果）

社会的価値（市民の意識・活動）

- ・旧北海道庁函館支庁舎を、札幌の開拓の村へ移築する計画に対する反対運動が始まったのをきっかけで、市民の景観への意識が高い。
- ・最近の市民活動として、遊休地を活用した花植えの市民活動が始まっている。
（NPO法人はこだて街なかプロジェクト）



3 . 港町函館の景観とその特徴



港町函館の5つの景観的特徴

港町の自然的特徴（地形）からの景観

港町の歴史や文化の景観

港とまちとのつながりの景観

水辺空間の景観

港湾機能に基づく景観（産業景観）

参考文献：平成17年度 北海道港湾の賑わい空間形成方策検討調査

港の自然的特徴（地形）からの景観

- ・港の背景となる「山」「島」「自然の海岸がつくる水際線の表情」などの自然地形は、港の形成に深く関わりを持ち、港の特徴的な風景をつくる重要な要素となる。



海上から函館港を望む

- ・こうした自然を活かして景観形成を進めることが、港町の魅力を高める。



函館山から住吉漁港を望む

自然的特徴

砂州によってつくられた函館

函館山は、最初は海の中に孤立。
陸地から延びてきた砂州と合体して陸続きとなった。



函館山から市街地を望む

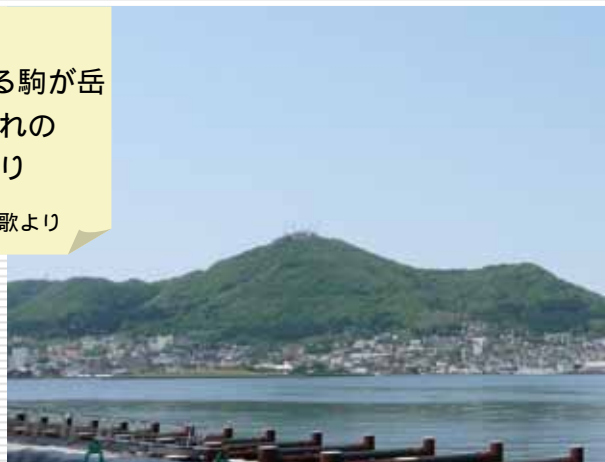
自然的特徴 - 函館山 -

函館のシンボルであり、函館市内の小学校校歌にも

1. 後に高き臥牛山
雲間に聳(そび)ゆる駒が岳
雄々しき姿あけくれの
書讀む窓に親しめり

函館市立弥生小学校校歌より

函館山は、牛が寝そべる
ような外観から『臥牛山』
とも呼ばれる。



自然的特徴 - 函館山 -



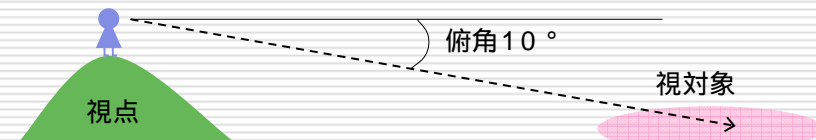
なぜ、函館山からの眺めは素晴らしいのか？



自然的特徴 - 函館山 -

視点が高所にあつて、対象を俯瞰する場合

視点対象が平面的な場合には、**俯角10°**近くが見やすいことされている。



函館山からの景観は、
 俯角10°のライン上に市街地と海岸線が重なる

みなとまち函館の5つの景観的特徴

港の自然的特徴（地形）からの景観

港の歴史や文化の景観

港とまちとのつながりの景観

水辺空間の景観

港湾機能に基づく景観（産業景観）

参考文献：平成17年度 北海道港湾の賑わい空間形成方策検討調査業務

港の歴史や文化の景観

- ・レンガや石造り倉庫などの歴史的建造物、棧橋跡などは、港町の歴史を物語る重要な要素。
- ・また、港を舞台とした祭りや行事は、地域固有の文化的風景をつくりだす。



- ・これらの港の歴史や文化景観を活かした景観形成が港町の魅力を高める。



海上から金森倉庫を望む



金森倉庫

港の歴史や文化の景観（外国人居留地の港）

居留地を持つみなとまちの景観特性

整然とした矩形状の街区形成

幹線道路が水際に対して直行する方向に軸線を持っている

レンガ造りの建物

丘の斜面に外国人の高級住宅地が形成



函館山から望む函館市街



旧函館区公会堂



金森倉庫

みなとまち函館の5つの景観的特徴

港の自然的特徴（地形）からの景観

港の歴史や文化の景観

港とまちとのつながりの景観

水辺空間の景観

港湾機能に基づく景観（産業景観）

港とまちとのつながりの景観

- ・港とまちの成り立ちは密接な関係に。まちと港との空間的つながりは、特徴的な景観をつくる重要な要素。（西部地区の坂道など）
- ・「まちから港への見晴らし」や、「港沿いの街から見える海への見通し」、「視界が港へ開ける道路」などは、港とまちのつながりを印象づける要素となる。



八幡坂



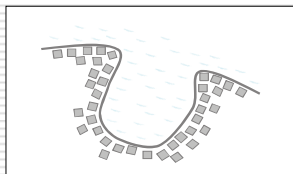
小樽港

- ▼
- ・港とまちのつながりを活かした景観形成が、港町の魅力を高める。

港とまちのつながりパターン

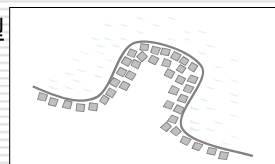
港とまちのつながりパターンは4つ

水面囲繞型（函館・小樽）
 まちが水面を取り囲む

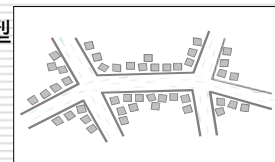


- ・天然の入り江に発達した港
- ・このタイプは、水辺のプロムナードや対岸からの眺め、山並みへの配慮が重要となる

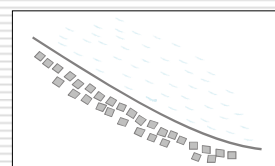
まち突出型



水路挟込型



並列型



港とまちのつながり

港とまちの視覚的な一体性
一体感を創出するためには、
互いに『見える』ことが重要

まちから港が「見える」

港からまちが「見える」

港とまちが同時に「見える」

- ・せっかく港町に来たのに、まちから港や水辺が見えないのは魅力が半減。
- ・港を歩いていて、街やその賑わいが見られないのは、楽しみがない。
- ・お互いが見えることが、大切。（視覚的一体性）



八幡坂



函館港



函館港と市街地

港とまちとのつながりの景観



港とまちの眺望の5類型の概念図（国総研資料）

港とまちとのつながりの景観



函館港を見通す元町の八幡坂（国総研資料）

みなとまち函館の5つの景観的特徴

- 港の自然的特徴（地形）からの景観
- 港の歴史や文化の景観
- 港とまちとのつながりの景観
- 水辺空間の景観
- 港湾機能に基づく景観（産業景観）

参考文献：平成17年度 北海道港湾の賑わい空間形成方策検討調査業務

水辺空間の景観

- ・市民にとって、港が親しみやすい場所があることが重要な要素。

「港の景観を楽しめる水辺やアプローチ」
 「市民に開かれたオープンスペース」
 「港へのアクセスのしやすさ」
 などが、親しみやすい港の環境をつくる



- ・これら水辺空間を活かした景観形成が、港町の景観と空間の魅力を高める。



小樽運河



金森倉庫

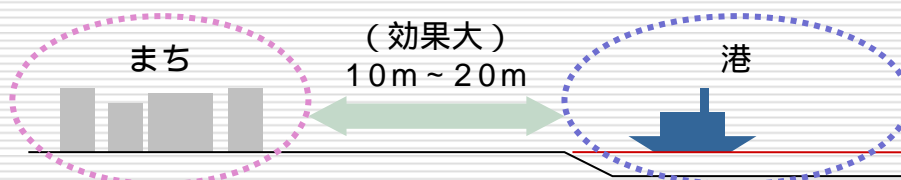
水辺空間との距離

港とまちの距離

まちから港までの距離を心理的に近いと感じるための目安

水際線近傍でくつろぐ人々が生き生きと見てとれること

10m～20m内外以近であれば効果大だが、
 100m以遠では効果が薄れてしまう



(出典：景観用語辞典)

水辺空間 - 水辺との距離 -

港の埋め立て

函館港の埋め立てにより、国道5号、国道279号の位置が内陸側へと移動し、ベイエリアを除く、まちが港から離れていった。



明治20年



昭和44年

水辺空間 - ベイエリア -

ベイエリア

かつては、青函連絡船の発着や倉庫業の拠点として、最も賑わいを見せた地区である。

現在は、倉庫をピアホール等の商業・文化施設へと再利用し、港と親しみやすい場として利用されている。



緑の島から金森倉庫を望む



金森倉庫



ベイエリアから函館山を望む

みなとまち函館の5つの景観的特徴

港の自然的特徴（地形）からの景観

港の歴史や文化の景観

港とまちとのつながりの景観

水辺空間の景観

港湾機能に基づく景観（産業景観）

港湾機能に基づく景観（産業景観）

- ・港では、物流や工業、荷役などに関わる産業活動が見られる。
- ・港を出入りする船や灯台、埠頭、マリーナ、棧橋、橋、展望塔等の施設は、港らしさを感じさせる重要な要素
- ・それら港湾機能を活かした景観形成が港町の魅力を高める。

ゴライアスクレーン

1975年、函館ドックが造船用クレーンとして設置して以来、函館のランドマークとして親しまれてきた。しかし、2009年6月に老朽化を理由に解体された。



港湾機能に基づく景観

にぎわい 朝市

早朝5時から威勢のいい掛け声が飛び交う、函館の朝市は産業と生活の景観



朝市



朝市

一般的な課題（函館は？）

- ・現代の港湾では、規模拡大に必要なから住民の活動拠点である市街地から遠いところに船の係留されるようになった（しかし、これは仕方がない側面も）

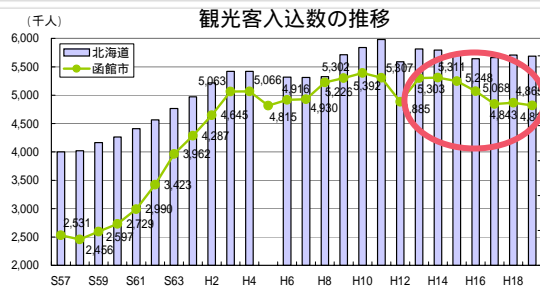
問題は、大型施設以外も一緒に沖合に移転されたこと（小型船、プレジャーボート、ヨットーなど） 無許可係留も原因？

- ・また、海外のフィッシャーマンズワーフの成功を受けて、これを模倣し、水辺が遊興空間と位置づけられ、本来的な港湾機能の場とは別に扱われたこと。
- ・再開発後には、遊覧船だけが出入りするだけになったり、アクセサリとして小型船舶を係留する事例も・・・。
- ・現役の船の活動景は、人の目から遠ざかっていった（港らしさは、まさに港湾活動にあり）

4 . 訪れる人からみた函館の景観



観光入込み数の減少



近年の観光入込数は減少傾向にある

観光客を呼び込むためには..



西部地区と観光客

函館市の特徴を活かし
さらに魅力を高めることが
必要ではないか？

ハードでも、おもてなしの心を伝える

函館玄関口の景観（函館空港）



函館空港内
函館らしい広告
が旅情感を・・・



2005年に新ターミナルビル完成

花と”木”のベンチでおも
てなし感のある玄関口



函館玄関口の景観（函館空港から市内へ）



空港施設に比べ、市内ま
での移動路でのおもてな
しが感の創出が課題？

印象的な視点場となり得る場所
だが、広告看板と建物により海
への視界を遮っている。



函館玄関口の景観（JR函館駅）



JR函館駅外観

デンマーク国鉄との共同デザイン

駅の“横”から出ると函館のシンボルの函館山が見えるが、・・・。
人は見たいもの（視対象）を気持ちよく見たいが・・・



JR函館駅から函館山を望む

函館玄関口の景観（国道5号線）



赤松街道（国道5号線）

昔は札幌 函館間を移動する際に赤松街道（国道5号線）を利用していたが、高規格道路ができた現在は利用が少なくなっている。

今後は、新しい函館の玄関口としての景観創出が必要？



赤松街道（国道5号線）

5 . 函館の残念な景観？

(ただし、西部地区を中心に、良好な景観が保全されている事例も多い)



函館の残念な景観（電線類）

主な移動経路に、電線類が非常に多く、煩雑な景観となっている。

ただし、道内の他の都市も似た状況



電線類

主な移動経路や重要な視点場では、地中化や裏配線、セットバック、街路樹による修景など、工夫しては？



湯の川温泉入り口の電線

函館の残念な景観（海岸線と温泉街）



大型ホテルが海岸沿いに配置され、海への眺望が妨げられているが、その背後には地域資源である美しい海岸線が存在。

足湯のおもてなし感は、今後の温泉街の景観形成につながる？



大森海岸

函館の残念な景観（街路樹）



剪定のしすぎにより、本来の街路樹の美しさを失い、木がかわいそうにさえ見える？
 地域の景観は、その地域全体で守りたい。

?

いずれも6月29日の状況



強剪定による管理
 (コスト高?)



自然樹形を生かした管理
 (コスト安?)

函館の残念な景観（市電停留所）



市電停留所

利用者に安心感とおもてなし感を与え、市電に乗りたくなるデザインが望ましい。
デザインの統一感も必要？



市電停留所

6. これからの 函館の景観



これからの函館の景観

『守る』

これまで先人たちによってつくられてきた函館の景観を、これからも守っていく

『改善する』

景観を阻害するものや、魅力を低下させているものを“みんな”で良いものとなるよう、改善していく

『つくる』

今も街は変わり続けている。先人が残したように今の人々が新しい函館の魅力ある景観を創出していくことが重要

『知られていない所を紹介する』



旧函館区公会堂



ベイサイドエリア

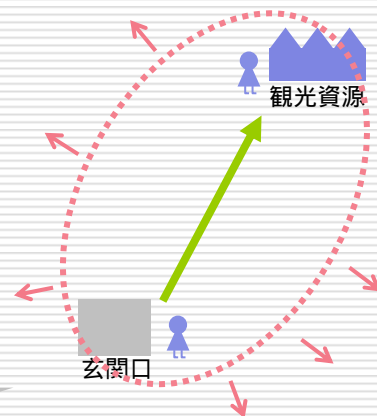


函館漁港

これからの函館の景観

まず『点』となる場所の景観、次に『線』となる景観を整える

『点』だけではなく、駅から金森倉庫までの沿道など、函館の玄関口と観光資源などをつなぐ『線』となるルート（移動ルート）の景観の魅力を高めることが重要。



『点』から『線』、そして『面』へ
 西部地区だけではなく、函館全体の景観を魅力的に

これからの函館の景観

・もう一つのポイント

再び訪れる人を増やすためには、観光資源としての景観だけでなく、函館市民の魅力的な生活景観の創出こそが、本物の町の魅力となる。



訪れる人は“あこがれの日常(風景)”を求めている

(一度は行ってみたい。 → 一度行けば十分?)

何度でも行きたい。そこが心地よいから・・・

函館という地域ブランド

エッフェル塔
パリの有名ブ
ランド
(プリウス) **地域ブランド**

水産ブランド・洋菓子ブランド

西部地区などの観光資源

商品だけでは地域ブランドになりえない

地域ブランドを支える要素

パリのカフェ、セーヌ川・・・
(トヨタ：環境のTOYOTA)

函館のイメージをより高めるには、地域文化などからにじみ出る地域の景観など、日常風景や暮らしぶりを高める

これからの函館の景観

函館市には『市民力』がある

西部地区の市民による活動

- 「函館の歴史的風土を守る会」
- 「港町・函館における色彩文化の研究（擦り出し等）」
- 「元町倶楽部のじろじろ大学」
- 「バル街」 など



函館市民による花づくり活動の様子

西部地区で築いた『市民力』を全市で展開すれば...

さいごに（1 / 2）

技術者・行政関係者の皆様へ

- ・景観とは、決して付加的なものではなく、満たすべき必要条件
- ・景観の誤解：景観はセンスではなく、知識によって理解できる
- ・三方よしの景観づくりを目指す（来訪者も管理者も地域住民も・・・）

・「基本技術」と「計画思想」が一体となって、初めて良好な景観や環境に配慮された社会資本となる。（技術者の役割？）

地域の魅力に貢献する社会資本でなければ、地域の真の豊かさには貢献しない



社会資本は、地域の財産。耐久消費財となってはならない

さいごに (2 / 2)

58

良好な景観形成が、空間（まち）の真の価値を高め、
地域の豊かさを引き出すことの認識が、



良好な景観醸成の取組みへの理解に

ご清聴ありがとうございました

寒地土木研究所
地域景観ユニット ホームページ
www.ceri.go.jp

地域景観ユニットへのお問い合わせは
scenic@ceri.go.jp

講演者へのお問い合わせは
y-matsuda@ceri.go.jp